

愛南町の皆さん、食事にまつわる知識や食べ物を選ぶ力を身につけて、健康で楽しい食生活を送っていますか？人生100年時代といわれる現代、生涯にわたっておいしい食事を楽しくいただき続けるには、食育の「継続」が大切です。愛南町では、2010（平成22）年4月から食育に取り組んでおり、私は、当初から今まで約15年間、学識経験者・専門家として愛南町の食育推進に関わる一方で、食育の学会などを通して全国的な動きを見てきました。ここでは、愛南町の食育が素晴らしい理由と、これからの食育のあり方をお話したいと思います。

これからも、一緒に、  
食育を「継続」しましょう！

よしかず  
若林 良和

<筆者プロフィール>

愛南町食育推進協議会委員、食育協働部会副部会長。愛媛大学理事・副学長、南予水産研究センター教授。日本食育学会理事



▲上：第13回愛南町食育推進大会（於 平城小学校）  
下：「ぎょしょく教育」の実践（カツオー一本釣り体験）

愛南町の食育が素晴らしい第1の理由は、愛南町では全国的に先駆けとなる取り組みを、5町村の合併前後より実施され、今も連綿と続けられていることです。一本松地区では、合併以前より文部科学省の指定を受けた食育推進事業が行われ、今では、町教育委員会指定の事業となり、町内各小学校で取り組み続けられ、その成果は「愛南町食育推進大会」で発表されています。内海・西海・城辺・御荘地区では、合併直後に始まった総合的な水産版食育の「ぎょしょく教育」が、今では、全町をあげた取り組みとなり全国的にも有名です。これらの取り組みは、「継続の成果」がはっきりと表れており、今後も、愛南町の食育推進において、「継続の根幹」であり続けるでしょう。

第2の理由としては、愛南町内に約30カ所も設けられた「愛南ふれあい・いきいきサロン」、さらに、各年代に対応した「あいなん食の学び舎」、食生活改善推進員によるさまざまな行事などで、料理教室をはじめ、時と場所と目的に応じた取り組みが絶えず続けられていることです。これらの取り組みは、すべての世代にわたって生活者の五感を大切にされたものであり、これこそが「継続の原点」です。

第3の理由に、愛南町の食育において、食育推進協議会と食育協働部会の連携が綿密に続けられていることです。愛南町食育推進計画「愛なん食育プラン」は、両者の間で調整と協議を重ねて決められます。こうした組織には、地域のさまざまな分野の方々が食育推進という共通の目標を達成するために協働されており、これこそが「継続の基盤」となります。

2025年（令和7年度）に、新たに4度目の食育推進計画がつくれます。地域ぐるみで、「継続」の大切さを合言葉に、豊かな自然の恵を活かした愛南町独自の食育を進めることで、健康の維持増進はもちろん、愛南町へのより強い誇りや愛着が生まれることでしょう。これからも、食育を「継続」すれば、きっと良いことがあるように思います。ぜひ、一緒に！



▲愛南町食育推進計画『愛なん食育プラン』（第1～3次）